

内山 茂晴

信州大学医学部 運動機能学講座 准教授

高齢者の橈骨遠位端骨折手術後の早期日常生活復帰と骨粗鬆症骨折の予防

現在広く使用されているビスフォスフォネート製剤であるアレンドロネート投与（週1回 35mg 内服）が骨折治癒に与える影響について、ロックングプレート固定を行った脆弱性橈骨遠位端骨折例を対象に、前向き無作為比較研究を行った。アレンドロネート早期投与群と3ヵ月後投与群において、QuickDASHを用いた日常生活動作評価と単純X線像上の仮骨形成、骨癒合について比較した。今回のわれわれの研究は、臨床でビスフォスフォネートの新規骨折の治癒過程に及ぼす影響を調査した初めてのものである。現在までのところ固定後骨片が転位、あるいは骨癒合が得られなかった症例はなかった。動物実験で示されているような仮骨過形成は2例に認められたが、アレンドロネートの作用か、固定性の問題かについては不明であった。アレンドロネート早期投与によりQuickDASHスコアはコントロールよりも低い、すなわちQOLが高い傾向にあった。結論を出すにはまだ症例数が少ないが極めて興味深い結果が得られる可能性がある。この研究は現在も継続中で、症例は少しずつ増えてきている。今回の助成により臨床的に重要な課題を解決するための研究の基盤ができた。